

第1分科会 テーマ：河川改修等における工夫事例

No.	題名	地方ブロック	水系名 河川名	直轄/補助 (級別)	河川概要				発表者	所属部署		事業の概要	主な関係者
					河川の流域面積	河川分類	整備計画流量※1	セグメント※1		機 関	部・事務所		
1	磯河原のある水辺空間の創出	北海道	沙流川水系 沙流川	直轄(1級)	1350	大河川	4,500m ³ /s (W=1/70)	2-2	うらべ あやか ト部 彩花	北海道開発局	鶴川沙流川河川事務所	・沙流川の流下能力向上のための河道掘削において、地域より水辺に近づきやすい磯河原の創出が求められ、意見交換をしながら背後地の利用実態や地域文化に配慮した掘削河岸の形状の立案を行った。 ・また、本格的な工事の前に試験掘削を行い、想定される植生についてモニタリングし、地域文化の植生にも配慮した整備を立案した。 ・今後は工事後の維持管理について地域と協働した河川管理など、引き続き意見交換を行っていく予定。	(地域の関係団体) 株式会社平取町アイヌ文化振興公社 (地域の関係団体) 平取地域イオル再生事業(水辺空間検討部会) (地域の関係団体) NPO法人沙流川愛クラブ (調査設計関係者) 株式会社リブテック (調査設計関係者) 株式会社ドーコン
2	小規模な河川における多自然川づくりについて～高橋川での事例～	北陸	犀川水系 高橋川	補助(2級)	25.1	中小河川	70m ³ /s (W=1/10)	1	こぼやしたみ 小林 拓実	石川県	石川土木総合事務所	高橋川は「中小河川に関する河道計画の技術基準について」が対象とする河川の中でも比較的規模の小さい河川である。このため河岸や水際部が河川環境に与える影響が相対的に大きい。また、沿線の都市化に伴う土地利用等の制約のため河岸防護施設として護岸の設置が必要な河川である。前述の制約のある現地条件のもと、防草緑化工法と植生ブロック(JB MQS)の2つの工夫で、従前の高橋川よりも良好な川づくりに努めることができた。	(協力会社及び開発メーカー) 株式会社ミルコン(植生ブロック) (協力会社及び開発メーカー) 株式会社田中建設(防草緑化工法)
3	木曾三川下流域におけるヨシ原に配慮した護岸設計について	中部	木曾川水系 揖斐川	直轄(1級)	1840km ²	大河川	4700m ³ /s (W=1/100)	2-2	かんだ かいと 神田 魁斗	中部地方整備局	木曾川下流河川事務所	・揖斐川左岸について、高水敷造成及び低水護岸の整備をするが低水護岸の形状について、ヨシ等の植物が生育しやすいような、環境に配慮した構造を検討した。	(調査設計関係者) セントラルコンサルタンツ株式会社 中部支社
4	円山川における自然再生について	近畿	円山川水系 円山川	直轄(1級)	1300	大河川	4,600m ³ /s (W=1/40)	2-1	てん なおき 天良 尚紀	近畿地方整備局	豊岡河川国道事務所	・平成16年23号台風後から現在までの自然再生事業の概要と効果、知見を活かして計画する中郷遊水地での湿地再生について発表する。	(調査設計関係者) 公益財団法人リバーフロント研究所 (調査設計関係者) 復建調査設計株式会社
5	生物生息域に配慮しワンドを残した 浚渫事業の合意形成 ～河川シミュレーションを使用した 「見える化」～	近畿	淀川水系	補助(1級)	-	中小河川	-	不明	かたやまだいすけ 片山 大輔	滋賀県	流域政策局河川・港湾室	治水と環境に配慮した浚渫事業において、治水安全度と河川環境はトレードオフの関係のため、事業のコンセンサスを得ることが課題である。生物生息域保全のため河道内のワンドを残した浚渫工事において、河川シミュレーションを行い、河川流等を予測し可視化した。このような科学的な情報をベースとした対話により、住民と共通認識を得てワンドを残しつつも浚渫する多自然川づくりを実行できた。	(共同研究者) 滋賀県琵琶湖環境科学センター (共同研究者) 兵庫教育大学大学院学校教育研究科 (地域の関係団体) NPO法人蒲生野考現倶楽部
6	那賀川の河川改修事業における 環境配慮について	四国	那賀川水系 那賀川	直轄(1級)	874	大河川	9000m ³ /s	2-1	おおしま ふみや 大島 史也	四国地方整備局	那賀川河川事務所	・那賀川の上庄地区では浸食対策事業として高水敷造成を行っている。 ・高水敷造成のために河道内に設置した仮設道路の撤去に際し、アユの産卵場に適した浅瀬となるよう河床高・水深に配慮し掘削を行った。 ・結果、アユの平均産卵数が増加するという良い影響をもたらした。	(工事関係者) 富岡建設株式会社
7	掘削土砂を用いた球磨川河口域にお けるヨシ原等の環境創出について	九州	球磨川水系 前川	直轄(1級)	1880	大河川	8,200m ³ /s (W=横石1/80)	2-2	ましら たけし 岸良 武志	九州地方整備局	八代河川国道事務所	・未分級の掘削土砂を用いて、河口域・汽水域でヨシ原(エコトーン)を創出し、干潟やヨシ原に生育・生息する多様な生物が再生した。	(共同研究者) 水生生物ワーキンググループ(宍倉徳雄(座長), 乾隆帝, 伊豫岡宏樹, 上久保祐志, 清野聡子, 高野茂樹, 皆川朋子) (調査設計関係者) 株式会社建設環境研究所九州支社 (調査設計関係者) 株式会社九州開発エンジニアリング